

第2号

平成20年
3月発行

新炉建設だより

編集・発行 倉浜衛生施設組合 沖縄市字倉敷152番地 電話(098)921-0883/FAX(098)921-0843

安全祈願祭

平成20年2月6日、沖縄市池原の新工場建設地で、倉浜衛生施設組合ごみ処理施設建設工事連絡会による「熱回収施設建設工事・リサイクルセンター建設工事・敷地造成工事」の合同安全祈願祭を行いました。

管理者あいさつ

本日、ここに、倉浜衛生施設組合熱回収施設建設工事・リサイクルセンター建設工事・敷地造成工事合同安全祈願祭並びに直会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

現工場は竣工から25年以上経過し、施設の老朽化による処理能力の低下により、ごみの適正、安定処理が極めて厳しい状況にあったことから、新たなごみ処理施設建設を計画し、地域住民の皆さまをはじめ、関係者の皆さまのご協力をいただき、本日ここに合同安全祈願祭並びに直会を挙行することができました。

新しいごみ処理施設は、環境への配慮、周辺住民との協調及び資源循環型施設を計画理念とし、熱回収施設、リサイクルセンターが整備されます。

安全・安心を基本に、最新の技術と設備を導入し、近代的なごみ処理施設が誕生し、ごみの適正、安定処理ができることは喜びとするところであります。

私達は、ごみ処理施設整備事業を推進するにあたっては、地域住民の皆さまとの対話を重視してまいりました。

幸い、倉浜衛生施設組合議員の皆さまをはじめ、多くの皆さまのご理解をいただきながら、その成果が着実に進んでいるものだと考えております。

本工事期間中はPOL道路を使用することになりますが、工事に携わる皆さまにおかれましては、隣接する農業団体の運営に支障のないよう万全を期していただきたいと思います。

結びに、本日の合同安全祈願祭並びに直会をお喜びいたしますとともに、工事の安全とご参会の皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げまして、ご挨拶といたします。



左から：管理者・東門美津子沖縄市長、副管理者・伊波洋一宜野湾市長、副管理者・野国昌春北谷町長、倉浜衛生施設組合議会・上間正吉議長

平成20年2月6日

倉浜衛生施設組合
管理者 東門美津子

ごみ処理施設建設基本合意書を締結

平成19年2月23日に倉浜衛生施設組合と沖縄市池原自治会が、ごみ処理施設建設基本合意書の締結をしたことを本誌創刊号でお伝えしましたが、その後、平成19年6月27日に沖縄市登川自治会、また同年10月15日には倉敷ダム流域振興促進協議会ともごみ処理施設建設基本合意書を締結しました。

今後は、三団体（池原自治会、登川自治会、倉敷ダム流域振興促進協議会）との基本合意書に基づく公害防止協定の締結及び地域還元の本合意などを進めていきます。



登川自治会調印式
(平成19年6月27日)



倉敷ダム流域振興促進協議会調印式
(平成19年10月15日)



倉浜議会及び地域住民先進地視察研修

平成19年度に倉浜衛生施設組合議会、登川自治会、池原自治会及び倉敷ダム流域振興促進協議会を対象に先進地視察研修を実施しました。

視察先は、当組合と同機種同メーカーの施工である、千葉県流山市の「流山市クリーンセンター」と埼玉県川口市の「川口市朝日環境センター」でした。

- ・流動床式ガス化溶融炉方式
- ・株式会社荏原製作所

視察研修の様子と各団体の代表者の方に視察研修の感想をお願いしましたので、その感想を紹介します。



倉浜衛生施設組合議会視察研修(14名)
(平成19年10月3日から5日)

池原自治会 玉城 勇 自治会長

池原自治会員は下記の日程にてごみ焼却施設の先進地視察を行いましたので報告致します。

視察期間：平成19年11月7日～9日

視察場所：千葉県流山市 流山市クリーンセンター
(リサイクルプラザ・余熱利用施設)
埼玉県川口市 朝日環境センター
(リサイクルプラザ)

前は平成14年2月に東京都内のストーカ炉の視察でしたが、今回は倉浜新施設の機種と同じ流動床式ガス化溶融炉の視察を行いました。事前に9項目の質問事項を送付し、また現地でも自治会員から質問を行いました。

施設については、ごみ焼却施設とリサイクル施設及び附帯施設として余熱利用施設で構成され、廃棄物を適正に処理し、リサイクルを行いごみ焼却で発生する熱を有効利用している施設でした。

余熱利用施設については流山市ではすぐ横に余熱利用施設「ほっとプラザ下花輪」があり、焼却施設同様、施設内まで案内をして頂きました。市民にも喜ばれているとのことでした。

川口市では見学はできませんでしたがリサイクルプラザの上層階に、余熱利用施設(温水プール等)が整備され市民に利用されているとのこと、両施設とも環境と安全に配慮した施設であり、合わせて地域のために還元施設等も整備していました。

池原自治会及び関係団体は昨年基本合意を締結しました。今後池原自治会としましては、公害防止協定の締結、地域要請事項の確実な実施に向けて引き続き協議していきたいと考えております。

最後に今回の倉浜新ごみ処理施設においても、建設時及び今後稼動する20数年間も事故のない安心、安全な施設を祈願し報告といたします。



(参加人数19名)

登川自治会 仲宗根 清朝 自治会長

倉浜衛生施設組合の焼却炉が老朽化して新炉建設に向けて着々と造成工事が進められています。

新炉建設地に近い登川自治会は評議員を中心に各種団体の代表が、平成19年10月24日から3日間の日程で千葉県流山市と埼玉県川口市の焼却炉施設を視察研修してきましたのでご報告いたします。

両施設に共通して言えることは、住宅地に近く住民が最も懸念する公害が出ないような施設をつくって欲しいという要望に対して流山市クリーンセンターと川口市の朝日環境センターでは、国の法定基準を下回るような数値設定をしているということでありました。

公害監視体制についても、学識経験者や周辺自治会の代表者、土地改良地区の代表者、廃棄物対策審議会の代表者等で構成されている『環境保全対策協議会』を設置して定期的に協議会を開催している。

両施設とも住宅地域に近接し(100～200メートル)地域住民が公害を心配するところだと思います。

しかしながら、現在の近代的な焼却施設からすると人為的なミスがない限り公害の心配はないと思われま。



(参加人数22名)

倉敷ダム流域振興促進協議会 池原 秀明 会長

川口市はかつて「キュウボラの街」として栄えた町で、「朝日環境センター」は、工場や住宅街の中に建設されていた。旧肥料工場の跡地で用地買収は移転補償などなく、コスト低減になったという。かつての迷惑施設というイメージとは違って、民家と近く混住していて、リサイクルプラザや地域融和型施設の「町民会館」、テニスコート、浴場、健康浴室、温水プール、ラウンジなど市民に親しまれる調和のとれた、近代的な施設として活用されていたのには、感心させられました。

今度の視察研修を通じて確認できたことは、迷惑施設と言われていた「ごみ焼却施設」が、田園風景や街の中でも見事に調和して、しっかりした管理のもとでは、共存し得る施設であることを改めて認識させられました。今後は、「倉浜衛生施設組合」の新炉建設の進捗状況や環境問題の取り組み方などの成り行きを見守りながら、しっかりと、公害防止協定を結び、お互い共存共栄が保てるように、信頼関係を築きながら、水源地補償と地元還元補償は実現して、地域の農業団体の経営改善に資するように取り組んでいきたい。

最後に、視察研修の機会を与えていただきました、倉浜衛生施設組合にお礼を申し上げるとともに、「流山市クリーンセンター」や「川口市朝日環境センター」関係者の皆様には、視察の場を提供して頂き、案内や説明を受けて、素晴らしい研修ができたことに感謝を申し上げます。ありがとうございました。



(参加人数 5名)
(平成20年1月28日から30日)



現在、新工場建設用地の敷地造成工事を終わっています。平成20年6月には熱回収施設、10月にはリサイクルセンター建設工事に着手し、平成22年3月の完成を予定しています。

